

令和元年度第2回岩手県男女共同参画審議会（R2.2.5）発言要旨

○ 2/5にお示した新プラン柱立のたたき台（以下、「新」と記載。）に対する御意見

項目	意見	対応方向
新Ⅰの柱について	<p>現行のⅠはどこをポイントにするのかが分かりやすかった。自然災害が頻発していることや防災会議でも課題があるという認識の中で、新のⅠでは「防災」という言葉が抜け、曖昧になった印象がある。</p> <p>男女共同参画局でも男女共同参画の視点での防災は言われているし、県の防災計画にも男女双方の視点が明記されているので、このプランにも男女共同参画の視点での防災を入れて欲しい。</p>	大規模自然災害が多発する中、防災への取組が重要であることから、引き続き防災を柱に位置づけ、多様な意見を反映した防災の取組を促進します。
新Ⅳの柱について	<p>現行のⅣはどこをポイントにするのかが分かりやすかったが、新のⅣでは「暴力の根絶」という具体的な言葉が抜け、曖昧になった印象がある。</p> <p>新のⅣは、大きな視点へとシフトしている。大きなシフトの割には、ポツ4つで書いている部分は、これで十分なのかという感じがする。</p> <p>性別やLGBT、障がい、外国人、低所得者、高齢者、発達障がい等も包括したところで、尊重され、尊厳を持って生きることができると考えてみると、ある意味プランを包括するものではないかと思う。置かれた立場によって、人生の選択肢の数が違ったり、選択のハードルが変わったりするのはおかしいということにつながるのではないか。</p>	<p>女性に対する暴力の根絶と女性の健康支援に引き続き取り組むことに加え、多様な困難を抱えた女性等への支援として「DV」「ひとり親」「高齢者」「障がい者」への支援、LGBTに係る施策をまとめて柱に掲げ、取組を促進します。</p>
	一人で経済的自立をしなければいけない単身高齢や若年女性の困難が、現プランではどこに位置づけるのか曖昧だった。新でⅣにはっきり位置付けられているという意味で、実際の対応が期待できるのではないか。困難を抱える女性が具体的に見えるところに出てくるというのはいい方向だと思う。	「困難を抱えた女性等への支援」の項を設け、取組を検討していきます。
岩手県の課題を柱に	<p>前回のプラン策定では、国のプランはどうあれ岩手県としては復興防災を一番に掲げるのだという非常に強い姿勢があった。今回もそれを踏襲するかは、必ずしもそうでなくてもいいかもしれないが、国がどうであるではなく、岩手県の課題が何かを一番重要視するという姿勢については大事。そういう意味では、話題にした若年女性の問題というようなものを重視する、定着しやすい岩手県のための男女共同参画プランのような、金太郎飴のようなものではないプランの作り方というのは、前回の復興防災を一番に持ってきた姿勢の継続としてはあり得る形ではないか。</p>	<p>復興・防災への取組が本県の重要課題であることから、引き続き柱として掲げて推進します。</p> <p>なお、本県にとって若年女性の定着等、人口減少対策は重要な課題です。</p> <p>この克服のためには、男女問わず若い世代が安心して働き、希望通り結婚・出産・子育てをすることができる社会経済環境の実現が必要です。</p> <p>新しいプランの策定にあたっては、ふるさと振興総合戦略の取組と連動しながら、プラン全体を通じて、若年女性の「生きにくさ」を「生きやすさ」に転換できるような視点を持ちながら検討を進めていきます。</p>

○以下、個別の施策内容等への御意見については、今後の策定作業の中でプランへの反映を検討していきます。

項目	意見
DV・性 犯罪	発達障がいと言われる子ども達の子育てに母親が困っている。虐待やDVのところについて、そこの部分をもっと手厚く、何としてもそこは無くすというところを強く出して欲しい。
	性被害の防止やワンストップセンターの体制整備がまだまだ進まない岩手に女性は住みやすいのだろうかという思いがあり、これも流出につながっているのではないかと感じている。性犯罪の防止についても記載して欲しい。
	はまなすサポートについても24時間対応ではない、医療者がいない等、課題が多々あると感じている。被害者がきちんと支援を受けるために初期対応をどうするかというところで非常に大きな課題。今回のプランの中で少し改善できたらと思っている。
若年女性 の県外流 出	新のⅠの現状に若年女性の県外流出があげられているが、その原因によって、どこの柱で対策すべきかが変わるのではないかと。Ⅰに含めることにより焦点がぼやけるという印象がある。
	若年女性の県外流出については、かなり大きなテーマになるのではないかとと思うのでぜひデータの整理をして欲しい。
	若者女性と若年女性というのは違うような気がする。若年女性の困難さをきちんととらえることは必要。県外に流出してもしんどい状況で暮らしている若い人が多いという話も聞くので、若年女性の戦略、岩手で暮らすというところを少し深めていただきたい。
	岩手県で育つというところがとても重要だと思っている。岩手でどのように育ったかということは、経済的な問題があったとしても、精神的に安心できる場であれば帰りたくなると思う。都会と比べ、平均値がこの位で、こんなに岩手は劣っていますよという育て方をしていると、岩手に愛着が持てないのではないかとと思う。
経済の視 点	経済の話が抜きになっているのがとても気になる。ジェンダー平等の大局的な目的である労働生産性と創造性の向上という部分を見失っているのではないかと感じる。 経済の話を中心にすべきではないか。国の委員会メンバーを見ても企業の人たちがほとんど入っていない。
「男女」 という文 言	「男女が」という文言を「すべての人が」に替えることはできないか。
	「すべての人々が」と書くと、ジェンダーの問題意識が薄まるので、岩手大学では、「性別に関わりなくすべての人々が」という言い方にしている。より包括的にということではどこかにそうした趣旨を明記し、以降はわかりやすく書くということもあるが、一方で、性別による格差があるということが分かるような表現はしっかり入れて行かないと、このプランの整合性がつかない。
実現への 見通し もった策 定	国の補助がなくなった場合に他の事業に影響がでないよう、実現する上での予算の重みづけやバランスの取り方を考えた構成とする等、見通しをもって策定する必要があるのではないかと。
他部局連 携	パブコメをしている子ども子育てプランにもワーク・ライフ・バランスという言葉が入っているので、各部局が連携して、見通しを立てながらプランを策定して欲しい。
若者の視 点	若い世代の意識は変わってきている。若者が入って次世代の議論をした方がいいのではないかと。
わかりや すい工夫	高齢者や子供でもわかりやすいような文言などの工夫をして欲しい。
	プランができたらわかりやすいリーフレットなどで周知をして欲しい。